
アレグロ

鬼蝶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アレグロ

【Nコード】

N0335F

【作者名】

鬼蝶

【あらすじ】

小さい頃から、ある力によって苦しめられてきた主人公、若狭哉楼。どうしても自分がこんな目に遭わなくてはいけないのかと悩んでいる時、優しく声を掛けてくれたのは……。

第1話 小さな光（前書き）

小説を書いた事があまり無いので、違和感があると思います。それでも、いいよ！と言って下さる人は、この先にお進み下さい。

第1話 小さな光

「もう、嫌だ……。」

毎日毎日、学校に行つては耳を塞ぐ。その繰り返し。いい加減、この生活に疲れを感じ始めていた。

僕には、人の声が聞こえる。口から出る声では無く、心の声。と言つても、こんなの誰も信じてくれはしない。

前に一度、父さんと母さんに、この事を打ち明けてみた。でも案の定、信じてはくれなかった。

「どうして、信じてくれないんだよ。」

今日も、学校で耳を塞ぐ。授業中も、休み時間もずっと。

みんな、人の気も知らずに楽しそうに話して……。イライラする。

「鬱うつになりそう。」

そう言いながら、僕は机に突っ伏せた。

「何を悩んでるんだ？」

あまりにも周りが五月蠅うるさい為に、僕はその声が聞き取れなかった。

「おい、哉楼？」

僕は背中を突かれてやっと気付いた。

「隠岐か……。」

僕の隣に立っていたのは、クラスのムードメーカー的存在である、

隠岐 駿実そじまだった。

隠岐は溜息を吐いている僕を見て、頬を膨ふくらました。

「俺で悪いか？」

「若狭わかさだ。」

僕は隠岐の言葉に、間髪を入れず言った。

「は？」

「名字で呼んでくれ。」

「どうして？ いいじゃねーか、別に。」

だって……。

「名前で呼ぶと……。」

クラスから浮いている僕と仲が良いと思われたら、隠岐も浮いてしまわないだろうか。

そう、僕は自分からみんなを避けていたんだ。だから……。

「恥ずかしいの？」

「ば……そんなじゃなくて。」

「ふ……。」

僕は隠岐を見上げた。

「何、笑ってんだよお。」

「だって、か……若狭って、もっと陰気いんきくさい奴だと思ってたから。普通に喋れるじゃん。」

「そういえば……。」

いつの間にか、自分が悩んでいた事を、忘れていた。

「ああ、話が逸れたな。で？何を悩んでたんだよ？」

コイツだったら、隠岐だったら、信じてくれるかもしれない。

第1話 小さな光（後書き）

読んで下さり、有難う御座いました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0335f/>

アレグロ

2011年1月14日03時44分発行